

様式2 輸出事業計画

※申請者名：株式会社奥富士、品目：りんご

1. 輸出における現状と課題

当社は、平成元年10月に奥富士アップルセンター「第1選果場」を設立し、主に津軽地方の生産者と市場等よりりんご生果を仕入れ、選果・梱包し国内及び海外（香港及び台湾）に販売している。（2023年輸出実績：464,827千円）。

今後の円滑なりんご輸出を実現するにあたり、各国バイヤーや取引先商社からISO22000の取得を求められているが、第1選果場では建物及び設備の構造上取得出来ないため、既存の倉庫を新選果場「第2選果場」として整備する必要がある。

【生産・選果】

- (1) 台湾及びタイ国向けに輸出を拡大するためには契約生産者の生産園地登録が必要となる。現在の契約生産者（仕入先構成）は生産者個人99者、法人2社であり、契約者数を拡大しながら原料及びトレーサビリティの効率的な確保を行う必要がある。
- (2) 入荷するりんごの残留農薬及び重金属の定期的な測定体制を強化する必要がある。
- (3) 異物混入、特に害虫混入は回数に応じて日本国内全てを対象にしたりんご生果輸出停止という事態に発展しかねないため、ISO22000に準拠した管理を行う必要があるが、現状の第1選果場では施設及び機器が対応できていない。

【梱包・保管】

- (1) 選果場と倉庫をゾーニングにより明確に分け、選果場を清潔区、倉庫を汚染区とし、その場で作業する人員の清潔区入退室管理と製品の衛生動線を設定する必要がある。
- (2) 輸出先国・地域に合わせた適正な商品表示が出来ていない。
- (3) 現状の選果機では1日の最大製造量が1,000CS前後であり、輸出コンテナ1本分に満たないため、商談に応じられないケースがある。

【流通】

- (1) 輸送コンテナの温度管理及び、海外コンテナヤード内での温度管理を商品輸送委託先に一任しているが、輸送基準や管理規格が各社で異なるため、商品の品質低下招く恐れがある。

【販売】

- (1) 第1選果場ではISO22000が適用されないため、バイヤー側の求めに応じらず、商談が成立しない。
- (2) 現状の輸出は大玉の赤色りんごに特化しており、在庫数が一番多い中玉品の販売量は相対して少ない。併せて、日中間の貿易問題の影響で香港で需要が高い黄色りんごの輸出量も伸び悩んでいる。
- (3) 納品先は輸出商社に一任しているため、先方バイヤーとの商談機会はほとんど無い。結果として、バイヤーが求める商品レベル（高級品・リーズナブル品）及び卸価格などの取引条件が把握出来ていない。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産・選果】

- (1) 契約生産者数を拡大し、海外輸出に対し供給力の高い状態を維持しながら、トレーサビリティを確保していく。実現するまでは市場買い付けによる仕入れて賄う。
- (2) 残留農薬及び重金属の検査は、検査機関「（一財）青森県薬剤師会 食と水の検査センター」に検査委託し、輸出に仕向ける原料の定期検査を実施することで検査体制を強化する。
- (3) 第2選果場を整備することでISO22000を取得出来ることから、輸出向け商品をすべて第2選果場で選果梱包を行い、国内向け商品を第1選果場で選果梱包に分けることが可能となる。

【梱包・保管】

- (1) 第2選果場においてビニールカーテンを用いたゾーニングにより清潔区（選果機周辺）と汚染区（倉庫）を区別するとともに、その動線上にサンタリー室を設け、人的汚染の防止に努めるとともに、作業員の衛生教育を徹底する。
- (2) 輸出向け商品は第2選果設備内自箱詰機で製品化し、製品管理装置と自動シールラベラーで適正表示する。
- (3) 第2選果場の処理能力が1,500CS/日になるため、1か月で36,000CSの出荷が可能になる。

【流通】

- (1) りんご商品の移送時における温度管理のガイドラインを作成し、各国バイヤーとその委託先に覚書を締結し、輸送委託先責任でコンテナ内の温度管理記録を把握出来る体制を構築する。

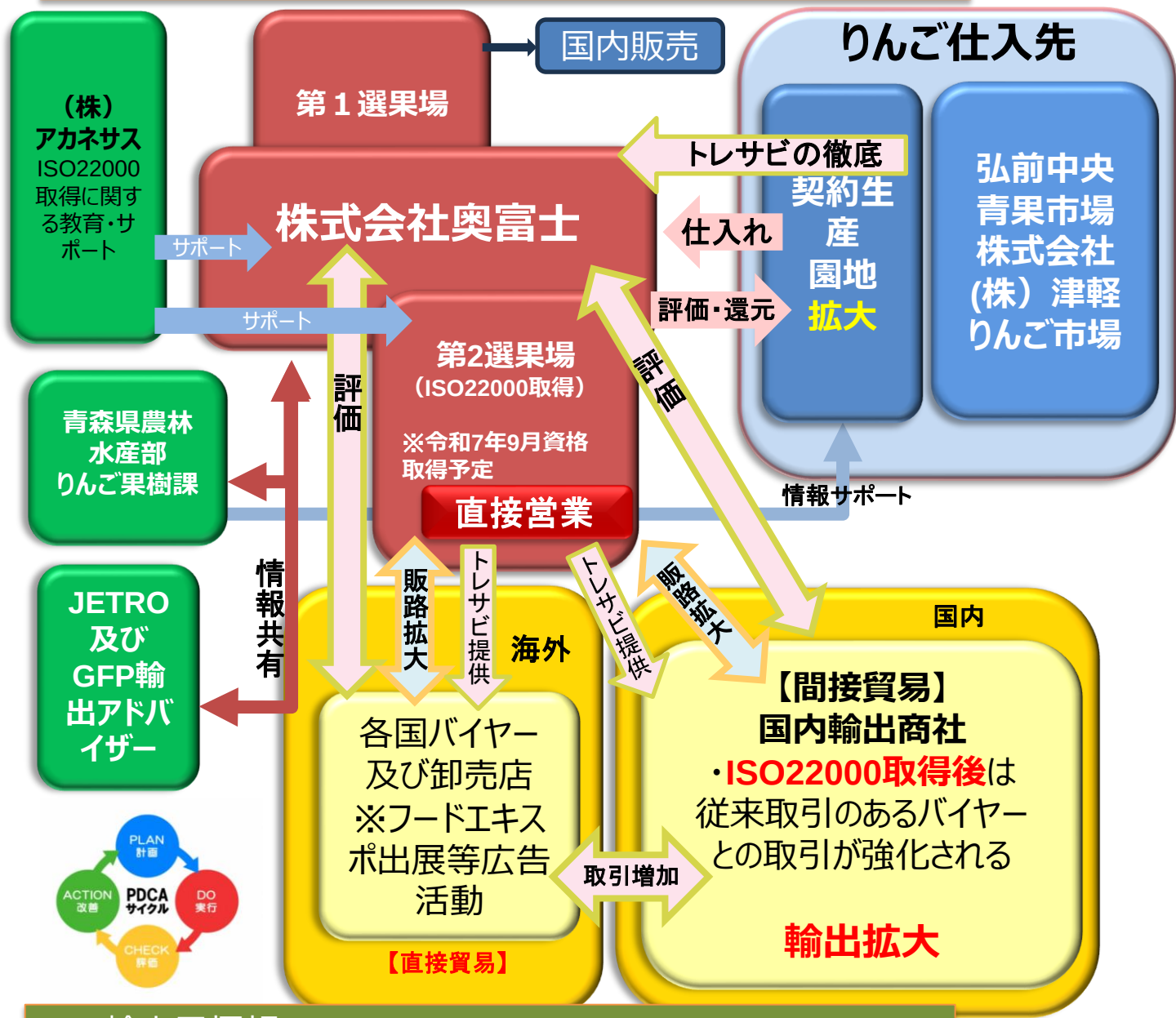
【販売】

- (1) 令和7年2月に第2選果場竣工、同年9月にISO22000を取得することで、バイヤー側の求めに応じることが出来るので商談成立に繋がる。
- (2) 中玉の海外販売先の対象枠を広げ、広く飲食関係全般を対象にし営業活動を行うと共に、輸出国のフードエキスポ等に参加し、青森県産品りんごの味の良さや安全面を積極的にアピールする。
- (3) JETRO及びGFP主催の商談会に積極的に参加し、輸出先国バイヤーと直接商談を組む。また、当社営業開発部でも輸出先国でのマーケティングに努め、バイヤーとの連携を積極的に取る。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社奥富士、品目：りんご

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

(輸出品目、りんご)	現状 (2023年3月期)	目標年 (2030年3月期)
輸出量 (千円)	464,827	623,939
輸出量 (t)	840	1,038
輸出先国	香港・台湾	香港・台湾・タイ
取扱量	17,850	20,999